

## 1. 経営成績

### (1) 経営成績に関する分析

#### ①当期の経営成績

##### 全般的状況

当期の経済情勢は、アジアでは中国をはじめとして一定の景気拡大が継続しましたが、その勢いは鈍化しており、米国では緩やかな景気回復が続きながらも、欧州では財政不安や失業率の高止まりにより景気が足踏み状態にあるなど、世界経済は不透明な状況が続きました。

一方国内経済は、東日本大震災によるサプライチェーンの混乱もその立て直しが比較的順調に進み、景気は持ち直し傾向にあるものの、円高や海外需要の停滞などにより厳しい環境が続きました。

このような状況の下、当社グループは2010年度から2012年度の三カ年の中期経営計画「ステージアップ 2012 一新たなる挑戦」の基本方針に基づき、その二年目として目標の早期達成に向け更なる業績の向上に取り組んでまいりました。

この結果、当社グループの連結売上高は前期に比べ225億9千1百万円増の6,386億5千3百万円、連結営業利益は16億4千3百万円増の460億6百万円、連結経常利益は17億8百万円増の408億8百万円、連結当期純利益は57億2百万円増の229億6千9百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
当期	6,386億円	460億円	408億円	229億円
前期	6,160億円	443億円	391億円	172億円
増減率	3.7%	3.7%	4.4%	33.0%

また、当社単独では、売上高は前期に比べ183億7千万円増の3,134億5千万円、営業利益は7億2千6百万円増の250億1千2百万円、経常利益は12億9千6百万円増の220億7千1百万円、当期純利益は60億7千7百万円増の113億8千万円となりました。

なお、東日本大震災、タイ洪水による当期業績への影響は、ともに比較的軽微でした。

##### セグメント別状況

セグメント別の概況は以下のとおりです。

##### 化成品・樹脂セグメント

アジア市場の旺盛な需要に支えられ高騰し続けたナイロン原料のカプロラクタムは、秋口以降、景気減速懸念などから市況が悪化しましたが、通期で見るとスプレッド（製品と原料の値差）は前期を大きく上回りました。原料調達や自動車向け需要などの面で懸念された東日本大震災やタイ洪水の影響が軽微にとどまり、ポリブタジエン（合成ゴム）は堅調で、ナイロン樹脂はタイでの新設備稼働もあり好調でした。工業薬品も総じて堅調に推移しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ265億1千万円増の2,310億2千6百万円、連結営業利益は29億6千3百万円増の229億8千8百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	2,310億円	229億円
前期	2,045億円	200億円
増減率	13.0%	14.8%

#### 機能品・ファインセグメント

リチウムイオン電池用の電解液・セパレーターは総じて堅調で、セラミックスも軸受、切削工具向けなどの需要が底堅く、堅調に推移しましたが、薄型ディスプレイをはじめ電子情報材料分野の需要不振のため、ポリイミド等、多くの製品で出荷が伸び悩み、価格も低下しました。またファインケミカル製品は、アジアでの需要低迷や円高の影響も受けました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ44億9百万円減の643億6千8百万円、連結営業利益は32億6千2百万円減の54億5千万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	643億円	54億円
前期	687億円	87億円
増減率	△6.4%	△37.4%

#### 医薬セグメント

抗アレルギー剤や血圧降下剤、抗血小板剤の自社医薬品を中心として、原体・中間体の販売は順調に伸長し、ロイヤルティ収入も増加しました。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ23億3千3百万円増の111億8千6百万円、連結営業利益は14億2千1百万円増の37億2千9百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	111億円	37億円
前期	88億円	23億円
増減率	26.4%	61.6%

#### 建設資材セグメント

セメント・生コン、建材製品の販売は、マンション・住宅着工や企業の設備投資が持ち直すとともに、復興需要も出始めたことにより増加しました。エネルギーコスト上昇の影響はあったものの、旺盛な海外需要を取り込み、セメント製造設備はフル稼働を維持し、各種廃棄物の原燃料へのリサイクル利用も拡大しました。カルシア・マグネシア製品の販売は、カルシア製品が粗鋼生産の落ち込み等の影響を受け、全体では販売が低調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ86億8千5百万円増の2,091億5千5百万円、連結営業利益は5億7千5百万円増の86億7千3百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	2,091億円	86億円
前期	2,004億円	80億円
増減率	4.3%	7.1%

#### 機械・金属成形セグメント

自動車産業向けを中心とする成形機は新興国向けの新機種を中心として出荷、受注ともに増加しましたが、縦型ミルや運搬機等の産業機械は受注、出荷ともに減少しました。成形機、産業機械ともに円高や国内外メーカーとの価格競争の激化等により厳しい状況が続きましたが、コストダウンや合理化により採算面では改善しました。製鋼品の出荷は堅調でしたが、円高の影響を受けました。

この結果、昨年3月に決定したアルミホイール事業からの撤退の影響もあり、当セグメントの連結売上高は前期に比べ108億5千8百万円減の725億7千5百万円となり、一方連結営業利益は13億2千2百万円増の30億8千6百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	725億円	30億円
前期	834億円	17億円
増減率	△13.0%	74.9%

#### エネルギー・環境セグメント

石炭事業は、販売炭、電力会社向けを中心とする預り炭ともに需要堅調ながら、コールセンター（貯炭場）の受入れ余力不足が続き、取扱い数量は前期を下回りました。電力事業は、燃料である石炭価格は上昇したものの、売電価格の上昇もあり堅調でした。

この結果、当セグメントの連結売上高は前期に比べ33億7千3百万円増の625億1千8百万円、連結営業利益は6億6千4百万円減の33億5千8百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	625億円	33億円
前期	591億円	40億円
増減率	5.7%	△16.5%

#### その他のセグメント

その他の連結売上高は前期に比べ9億4千1百万円減の259億1千1百万円、連結営業利益は9千5百万円減の10億3千4百万円となりました。

項目	連結売上高	連結営業利益
当期	259億円	10億円
前期	268億円	11億円
増減率	△3.5%	△8.4%

## 当期に実施した主な施策など

### 化成品・樹脂セグメント

- ◆ アジアでの需要の伸びに対応するため、昨年4月に堺工場で年産5千トン、昨年12月にタイ国のウベ・ケミカルズ・アジア社で年産2万トン、カプロラクタム生産能力をそれぞれ増強しました。

### 機能品・ファインセグメント

- ◆ タイ国のウベ・ファイン・ケミカルズ・アジア社において、昨年6月に1,6ヘキサンジオール工場が完成し、営業運転を開始しました。
- ◆ 当社と韓国のサムスンモバイルディスプレイ社は、次世代ディスプレイの基板用にポリイミドを生産・供給する合弁会社の設立に合意し、昨年8月、「エスユーマテリアルス社」（本社：韓国忠清南道 牙山市）を設立しました。
- ◆ リチウムイオン二次電池向け需要の増加に対応するため、昨年9月に宇部ケミカル工場において、第7期機能膜（セパレーター）製造設備が営業運転を開始しました。
- ◆ 当社と米国のダウ・ケミカル社は、今後ハイブリッド自動車や電気自動車などの車載用途をはじめとして蓄電用途や産業用途などで、大幅な需要の増加が予想されるリチウムイオン二次電池向け電解液の製造及び販売等の合弁事業化に合意し、「アドバンスド・エレクトロライト・テクノロジー社」（本社：米国ミシガン州）を昨年12月に設立しました。
- ◆ 当社がマリン系香料「ヘリオフレッシュ®」の製法として世界で初めて実用化した完全化学合成法の開発について、昨年12月に「2011年日経地球環境技術賞 優秀賞」を、また今年2月には「第60回 日本化学会化学技術賞」を相次ぎ受賞しました。
- ◆ 太陽電池生産用部材、軸受・切削工具向けなどの需要拡大に対応するため、今年1月、宇部ケミカル工場において窒化珪素（セラミックス）の増産設備が完工し、営業運転を開始しました。

### 医薬セグメント

- ◆ 医薬原体の今後の需要に対応するcGMP対応の医薬原体製造設備として、第四医薬品工場が宇部ケミカル工場内に完成し、昨年9月に営業運転を開始しました。
- ◆ 昨年10月、当社は参天製薬株式会社（本社：大阪市）との間で、当社の保有するEP2アゴニスト化合物の眼科疾患治療剤（開発コード：DE-117）に関するライセンスを供与し、緑内障・高眼圧症治療剤として共同開発することに合意しました。

### 建設資材セグメント

- ◆ 昨年7月、宇部興産海運㈱が運航するセメント運搬船「興山丸」が、学術的産業的技術をさらに発展させ、またその先進性・重要性を国内外に知らしめた船舶等に贈られる日本マリンエンジニアリング学会の「マリンエンジニアリング・オブ・ザ・イヤー2010」を受賞しました。
- ◆ 宇部マテリアルズ㈱は、双日㈱とともに昨年8月、中国安徽省の石灰製造会社「青陽海億社」に出資し、経済成長に伴い市場が急拡大している中国の石灰事業に参入しました。
- ◆ 苅田セメント工場に廃プラスチック燃料化設備が今年3月に完工し、営業運転を開始しました。廃プラスチックから塩素、異物を取り除く前処理を行う本設備により、さらにセメント製造工程での廃棄物処理を拡大してまいります。

### 機械・金属成形セグメント

- ◆ 宇部興産機械㈱と宇部テクノエンジ㈱は、インドをこれからの重要市場と位置づけ、産業機械・装置に関するアフターサービス・販売を目的として「ウベ・マシナリー・インディア社」（本社：インド ハリヤナ州 グルガオン地区）を昨年12月に設立しました。

### その他

- ◆ 当社は、台湾におけるUBEグループ製品の市場開発、営業開発の拠点として、昨年12月、台湾・台北市に「台湾宇部社」を設立しました。

## ②次期の見通し

今後の経済情勢につきましては、引き続き新興国の経済成長が期待されながらもその勢いは鈍化しており、先進国でも緩やかな景気回復が見込まれるものの、世界経済は欧州財政危機の影響による景気の下振れ懸念が拭えず、また国内経済においても、東日本大震災からの復旧・復興需要は見込まれるものの、電力供給の制約や原子力災害の影響が懸念され、原燃料価格や為替等の先行き不透明な要因もありますことから、事業環境は予断を許さない厳しい状況が続くものと予想されます。こうした情勢を踏まえ、次期の業績見通しについては、平成24年4月から平成25年3月までの為替水準を1ドル＝80円、国産ナフサ1k1＝54、800円と想定し、次のとおり予想しております。

連結売上高は、化成品・樹脂セグメント及び機能品・ファインセグメントでの販売数量増による増収等により、6,780億円と予想しております。連結営業利益は、化成品・樹脂セグメントにおいてカプロラクタムのスプレッド（製品と原料の値差）縮小による減益が見込まれるものの、機能品・ファインセグメントや建設資材セグメントにおいて販売数量増等による増益が見込まれるため、当期を若干上回る470億円と予想しております。連結経常利益は410億円、連結当期純利益は230億円とそれぞれ予想しております。

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
平成25年3月期	6,780億円	470億円	410億円	230億円
平成24年3月期	6,386億円	460億円	408億円	229億円
増減率	6.2%	2.2%	0.5%	0.1%

## セグメント別連結売上高

項目	化成品・樹脂	機能品・ファイン	医薬	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	セグメント間の内部売上高消去
平成25年3月期	2,580億円	780億円	125億円	2,050億円	785億円	645億円	235億円	△420億円
平成24年3月期	2,310億円	643億円	111億円	2,091億円	725億円	625億円	259億円	△380億円
増減率	11.7%	21.2%	11.7%	△2.0%	8.2%	3.2%	△9.3%	—

## セグメント別連結営業利益

項目	化成品・樹脂	機能品・ファイン	医薬	建設資材	機械・金属成形	エネルギー・環境	その他	調整額(注)
平成25年3月期	185億円	90億円	40億円	95億円	35億円	40億円	10億円	△25億円
平成24年3月期	229億円	54億円	37億円	86億円	30億円	33億円	10億円	△23億円
増減率	△19.5%	65.1%	7.3%	9.5%	13.4%	19.1%	△3.3%	—

(注) 調整額は、各セグメントに配分していない全社費用（各セグメントに帰属しない一般管理費等）及びセグメント間取引消去額の合計額です。